

令和8年5月22日

第79回カンヌ国際映画祭における日本映画公式出品作品等の支援状況について

第79回カンヌ国際映画祭において、世界各国から選ばれた作品がパルムドール（最高賞）をかけて競う「コンペティション」部門に日本映画が3作品ノミネートされました。

なお、コンペティション部門等の授賞式は、現地時間5月23日（土）20時15分（日本時間5月24日（日）4時15分）目途で開催見込みです。

（1）日本映画公式出品作品について

「コンペティション」部門の公式出品作品は以下の通りです。

- ・『ナギダイアリー』（深田晃司監督）
（文化庁文化芸術振興費補助金「日本映画製作支援事業」令和7年度採択）
- ・『箱の中の羊』（是枝裕和監督）
- ・『急に具合が悪くなる』（濱口竜介監督）
（文化庁文化芸術振興費補助金「国際共同製作映画支援事業」令和7年度採択）

※その他部門を含む出品作品一覧は別紙【参考1】を参照。

（2）「ジャパン・パビリオン」の出展

日本映画の情報発信拠点として「ジャパン・パビリオン」を出展し、以下のような取組を行いました。また、今回のパビリオン及び（3）のブースのデザイナーに、監督週間に作品がノミネートされた矢野ほなみ監督を起用し、特別な空間を演出しました。

○期間：令和8（2026）年5月12日（火）～23日（土）

○会場：ヴィレッジインターナショナル リヴィエラ

○ブース面積：100 m²（パビリオン75 m²、テラス25 m²）

○取組内容

- ① 公式出品作品の紹介（動画、画像展示）
- ② 日本映画に関するミーティング、取材、プレス発表等の会場提供
- ③ 公式出品作品関係者、海外事業関係者を招待した交流会
- ④ 「Film Frontier Global Networking Program」 ※詳細は（2）を参照
- ⑤ 『Japanese Film 2026』の配布など日本の製作支援制度の紹介 など

(3) 「Film Frontier Global Networking Program」の開催

5月13日(水)にジャパン・パビリオンにおいて、「Film Frontier Global Networking Program」を開催しました。伊藤学司文化庁長官による冒頭挨拶の後、「クリエイター支援基金」の支援を受けてクリエイター育成プログラムを開発中の団体及び育成対象者による状況報告や企画プレゼンテーション、石川慶監督のゲストトーク、関係者交流会等を行いました。

○令和6年度補正予算「クリエイター等支援事業(育成プログラム構築・実践)」に取り組む団体及び事業名

- ・アットムービー「ATMOVIE GLOBAL TRACK」
- ・映像産業振興機構(VIPO)「Film Nexus-Pro」
- ・Tokyo Docs「ドキュメンタリー国際人材育成プロジェクト(J-Docs Hub)」
- ・日本映画撮影監督協会(JSC)「Cinematic Quantum: The Innovative Eye of a Cinematographer」
- ・東京藝術大学「映像リサーチセンターDoCK:産学官<共創>研究拠点の構築」
- ・塚本学院(大阪芸術大学)「国際アニメーション人材育成プログラム構築・実践事業」

○令和5年度補正予算「クリエイター・アーティスト育成支援事業」の採択事業「Film Frontier」(受託者:公益財団法人ユニジャパン)の育成対象者

- ・太田信吾 映画監督・俳優
- ・川和田恵真 映画監督
- ・中西舞 映画監督
- ・長谷井宏紀 映画監督・脚本家
- ・飯塚陽美 映画監督
- ・佐久間啓輔 映画監督
- ・早川千絵 映画監督
- ・山下つぼみ 映画監督
- ・金子由里奈 映画監督
- ・草野なつか 映画作家・脚本家
- ・たかはしそうた 映画監督
- ・藤元明緒 映画作家
- ・吉原裕幸 プロデューサー

○同「Film Frontier」による支援作品

- ・『ホウセンカ』(CLAP/木下麦監督)
- ・『MINT』(白組/小森よしひろ監督)
- ・『花緑青が明ける日に』(アスミック・エース/四宮義俊監督)
- ・ストップモーション時代劇『HIDARI』(dwarf/川村真司監督・小川育共同監督)

『HIDARI』については、併設映画見本市の「アヌシー・アニメーションショーケース」に選出され、5月17日（日）のプレゼンテーションの際に、主演声優としてキアヌ・リーブスの起用が決まったことが発表されました。

なお、「クリエイター支援基金」については、進捗報告会を6月5日に開催予定です。4月15日及び5月20日の報道発表をご覧ください。

(4) 併設映画見本市における「ジャパン・ブース」の出展

併設映画見本市に「ジャパン・ブース」を出展し、我が国企業及び団体が日本映画の海外広報・営業活動の拠点として活用しました。

○期間：令和8（2026）年5月12日（火）～5月20日（水）

○会場：併設映画見本市メイン会場パレ・デ・フェスティバル 地下1F

○ブース面積：42㎡（出展者スペース/受付/スタッフスペース/倉庫等含）

○共有ブース使用企業：8社・団体

○取組内容

- ① 海外セールス自社企画PRのための商談スペース、ミーティングポイントの提供
- ② セールス作品の紹介動画・ポスター・チラシ等の掲示による広報宣伝 など

本件問合せ先
文化庁参事官（芸術文化担当）付
コンテンツ振興室 相原、河北
【代表】03-5253-4111（内2827）
03-6734-2062（直通）

【参考1】第79回カンヌ国際映画祭における日本映画公式出品作品

※カンヌ国際映画祭公式HP <https://www.festival-cannes.com/en/the-selection/>

■「コンペティション」部門

- ・『ナギダイアリー』（深田晃司監督）
（文化庁文化芸術振興費補助金「日本映画製作支援事業」令和7年度採択）
- ・『箱の中の羊』（是枝裕和監督）
- ・『急に具合が悪くなる』（濱口竜介監督）
（文化庁文化芸術振興費補助金「国際共同製作映画支援事業」令和7年度採択）

■「ある視点」部門

- ・『すべて真夜中の恋人たち』（岨手由貴子監督）
（文化庁委託事業「ndjc:若手映画作家育成プロジェクト」平成21年度参加）
- ・『タイタニック・オーシャン』（コンスタンティナ・コヅァマーニ監督）
（ギリシャ・日本・ドイツ・ルーマニア・フランス・スペイン国際共同製作作品）

■「カンヌプレミア」部門

- ・『黒牢城』（黒沢清監督）
（文化庁文化芸術振興費補助金「日本映画製作支援事業」令和7年度採択）

■「ラ・シネフ」部門

- ・『また雨が降るのか』（黄昭鴻監督）

■クラシック部門

- ・4K修復版『姿三四郎』（黒澤明監督）

■シネマプラージュ部門

- ・リストア版『新幹線大爆破』（佐藤純弥監督）

■「監督週間」

- ・ショートフィルム『Eri』（矢野ほなみ監督）
（文化庁「メディア芸術クリエイター育成事業」令和4年度参加）
- ・『我々は宇宙人』（門脇康平監督）

■その他（併設国際見本市公式プログラム「アヌシー・アニメーションショーケース」）

- ・ストップモーション時代劇『HIDARI』（dwarf/川村真司監督・小川育共同監督）
（令和5年度補正予算「クリエイター・アーティスト育成支援事業」支援作品）

【参考2】 ジャパン・パビリオンの様子



【参考3】 「Film Frontier Global Networking Program」の様子



【参考4】 ジャパン・ブースの様子



(別紙1) 「Film Frontier Global Networking Program」の概要



Film Frontier
Organized by Agency for Cultural Affairs, Government of Japan, Japan Arts Council and UNIJAPAN

Film Frontier Global Networking Program

The Film Frontier Global Networking Program focuses on supporting emerging filmmakers in their planning and development activities, helping them realize projects with a global perspective and empowering them to take on challenges overseas.



UNIJAPAN



Japan Creator Support Fund



C in Cannes



AKIO ELMOTO
Film director



EMMA KINNKODA
Film director



HIROYUKI YOSHIHARA
Film producer



MAKI NAKASHIMA
Writer & Director



MAKI KUSANO
Film director



YURINA KANEKO
Film director



SANGO OTA
Film director and actor



AOI TAKAHASHI
Film director



Film Frontier
Organized by Agency for Cultural Affairs, Government of Japan, Japan Arts Council and UNIJAPAN

Film Frontier Feature Anime Creators in Progress

Film Frontier Feature Anime Creators in Progress supports international development for feature-length animation projects involving young creators, with the aim of the creators being actively engaged to facilitate growth and broader international knowledge.



UNIJAPAN



Japan Creator Support Fund



A in Cannes Animation



HIDARI
Director



MASASHI KINNKARA
Director



IKU OGAWA
Director



THE STOP-MOTION SAMURAI FILM
<https://hidari-movie.com>



A NEW DAWN
Director: YOSHITOMO HISATOMI
©2025 A NEW DAWN Film Partners

日本映画の創造・振興プラン

令和8年度予算額
1,293百万円
(前年度予算額
1,180百万円)



背景・課題

- ・【人材育成】日本映画の魅力を持続・向上していく上での基盤整備として重要。中長期的視野に立った人材育成への投資は、個社レベルでは限界。
 - ・【製作支援】日本映画の持続的な発展の観点からは、多様な発想が継続的に生み出される必要。興行的な成功を優先すると切り捨てられかねないストーリーや表現の育成といった観点も重要な視点。
- ・【国際発信】中長期的視点に立てば、我が国人口の減少に伴い、市場そのものが縮小していくことが懸念。魅力的な作品作りを維持・強化していくためには海外市場を含めたマーケットの拡大を図る必要。
- ・【日本映画の振興】ため、次世代に繋がる、多様で豊れた世界に誇れる日本映画の創出サイクルを確立させることが必要。

事業内容

基盤等整備

若手映画作家等の育成 (内訳164百万円)

若手映画作家等に対し、ワークショップや映画製作を通じた技術・知識の習得機会等の提供、プロフェッサーと連携した企画・脚本開発のサポートを実施。
また、映画制作の現場において、各過程を担う専門性の高い若手映画スタッフを育成。**【拡充】**(委託事業)



- ・事業期間：平成16年度～
(内短編映画製作 平成18年度～)
- ・支援対象：若手映画作家 15人程度等

国立映画アーカイブとの有機的な連携

国立映画アーカイブとの有機的な連携を図るため、以下の事業を(独)国立美術館運営費交付金において実施する

優秀映画監督推薦事業

広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供するため、日本各地の文化施設等と連携・協力して、所蔵映画フィルムの巡回上映を全国の会場で実施

アウトプット(活動目標)

- 日本映画の振興のための各種事業を継続・向上させ、以下目標達成に繋げる。
 - ・製作実地研修における研修者数
 - ・映画製作への支援件数
 - ・3大映画祭など海外映画祭への出品支援数

創造・製作活動

日本映画製作支援 (内訳880百万円)

優れた日本映画や国際共同製作映画の製作活動に対して支援すること、多様な作品の上映に寄与。
【補助事業】

- ・事業期間：平成23年度～
- ・補助金での支援(補助2,140万円(劇映画の映画認定作品は2,782万円**【拡充】**))、国際共同製作1億円、バリエーション字幕、音声ガイド、多言語字幕制作について、各々上限100万円の措置。)
- ・支援対象：劇映画23件、記録映画9件、アニメーション9件、国際共同製作6件程度



ロケーションデータベースの運営

全国各地のフィルムコミッションのロケ地情報等をインターネット上に集約・一括検索を可能とする。国内の映画撮影・創造活動を促進

アーカイブ中核拠点形成モデル事業

ポスターやパンフレット等の非フィルム資料のアーカイブ化推進において中核となり得る所蔵館・機関等を拠点化し、当該拠点を中心としたアーカイブ整備を効率的かつ効果的に促進

短期アウトカム(成果目標)

- ・研修後の映画製作関連業務への従事率
- ・製作支援した作品の国内外の映画祭等における受賞数
- ・3大映画祭などの海外映画祭へ出品支援した作品の受賞数

発信・海外展開・人材交流

日本映画の海外発信 (内訳130百万円)

海外映画祭への出品支援や海外映画祭におけるジャパン・ブース等の出展など、日本映画の効果的な魅力発信につながる取組を実施。

加えて、令和5年6月の日韓文化大臣会談において両国間の更なる文化交流を促進することで一致したことを踏まえ、芸術系大学等を対象として映像分野におけるグローバルネットワークを構築。**【委託事業】**



- ・事業期間：平成15年度～
- ・支援対象：出品等支援42件、海外映画祭出展4件、監督派遣3件程度

国際映画祭支援 (内訳119百万円)

我が国で開催される、海外発信力のある国際的な映画祭への支援を実施することで、日本映画の国際競争力の向上・日本文化の発信に寄与。**【補助事業】**

- ・事業期間：平成23年度～
- ・支援対象：6件
- ※経済産業省との共同実施を含む

長期アウトカム(成果目標)

- ・製作実地研修に参加した若手映画作家等が継続的に商業長編映画監督としてデビューする。
- ・我が国の映画文化の一層の振興・発展に資する。
- ・日本映画の海外における評価の維持・向上と日本ブランドの確立へ寄与。
(担当：文化庁参事官(芸術文化担当) 付)

【新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2025】

- Ⅲ. 投資立国の実現
 - 2. 新たな勝ち組となる分野での研究開発・輸出の強化
 - ④ コンテンツ産業活性化戦略の実行
 - ⑤ 海外展開及び世界に通用するコンテンツの制作・流通の促進
 - ⑥ コンテンツ制作の支援
 - ⑦ コンテンツ制作の支援
 - ⑧ コンテンツ制作の支援
- 【文化芸術基本法】(メディア芸術の振興)
① 海外展開、映画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術(以下メディア芸術という。)の発展を図るため、メディア芸術の振興に資するものを実施。
② コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
③ コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
④ コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
⑤ コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
⑥ コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
⑦ コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
⑧ コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
- 【経済財政運営と改革の基本方針2025】
① 海外展開、映画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術(以下メディア芸術という。)の発展を図るため、メディア芸術の振興に資するものを実施。
② コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
③ コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
④ コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
⑤ コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
⑥ コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
⑦ コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。
⑧ コンテンツ制作の支援、メディア芸術の振興に資するものを実施。